

## 農林水産省 フードテック研究会（第4回） 議事要旨

日時：令和2年5月29日（金）10時～12時

場所：ウェブ会議

出席者：食品企業、ベンチャー企業、研究機関、関係省庁等から約220名が参加（農林水産省を含む）。

第4回では、今後の議論の進め方について、意見交換を行った。

### 意見交換で出された主な意見

#### ○今後の議論の進め方について

- ・研究会の目的に立ち返って議論を進めるべき。重要な論点は①戦略的なプロダクトの設定、②バリューチェーンの戦略的な構築、③戦略の実行。
- ・日本の抱える課題は、国内の食料安全保障のほか、海外からの調達や国内生産力の向上など多岐にわたる。こういった出口戦略の議論。
- ・詳細な議論については、課題単位の分科会を設けて進めてはどうか。事務局で、ある程度課題の取舍選択も必要ではないか。
- ・出口・期間を定めて議論する分科会（部活）と、オープンに活動を継続していく分科会（サークル）を設けるという考え方は良い。課題は詰めなければならない一方、最終的には価値観に委ねられるもの（特に、社会受容性に関する議論）もあるため、民主的に進めるべき。必ずしも、農林水産省等官庁のリーダーシップによらない進め方もあると思う。
- ・部活とサークルに線引きが必要ではないか。何を基準に部活、サークルとするのか、具体的な考え方を整理していく必要。
- ・参加者の考え方の整理が必要ではないか。
- ・協議会の対象として何を想定するか明確にしていく必要。フードテックの定義に加えて、フードテックの現状、今後出てきそうなものを整理していく必要。全体を分析し、ロードマップのようなものを整理した上で、議論の対象を整理していくべき。

#### ○分科会の立て方・テーマについて

- ・ハイエンド市場を意識した議論が必要。日本ならではのユニークな視点（麹菌を使った発酵等）もあるとよいのでは。
- ・経営者には10～20年後のあるべき姿について考えて欲しい。「このままでは美味しい食事が食べ続けられなくなるという問題。これをフードテックで解決するという研究会の趣旨」というコンセプトを明確にしていくべき。
- ・いまはいろいろな品目が混じって議論しているが、代替肉、培養肉、養殖では論点が異なるので、品目で分けた議論の進め方も必要。
- ・テーマによって幅が異なるので、例えば、品目ごとに一つの分科会にして、具体的に議論するテーマの絞り込みをしてはどうか。

- ・ 共通して目指すべき部分については共通の横断的テーマを設定。他方で、品目ごとの方は、それぞれに時間軸も異なる論点がある。縦・横を整理して議論すべき。

○中間取りまとめ素案への追加の意見について

- ・ 研究開発の環境整備は必要。フードテックについては、NEDO や JST では選ばれにくいところがある。例えば、NEDO の NEP は起業家育成がメインのため採択されるが、STS になると、事業化という観点では、出口までの時間がかかるフードテック分野は採択されにくい。食や農林水産分野のベンチャー支援を重視する仕組みが、食料安全保障の強化にあたって必要。

以上